

本はともだち

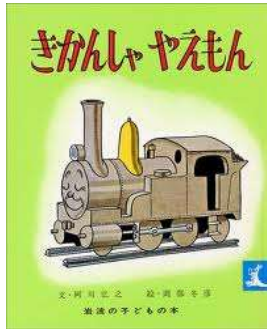
— 図書館がすすめる6～7歳の本 —

	<p>あおい目のこねこ</p> <p>エゴン・マチーセン/作・絵 瀬田貞二/訳 福音館書店 D949.7 マ</p> <p>青い目の元気なこねこが、ねずみのくにを探しに出かけました。ほら穴で、きらきら光る大きな目玉ににらまれたり、黄色い目のねこたちに仲間はずれにされたりしますが、それでも、こねこはへこたれません。</p>
	<p>いやいやえん</p> <p>中川李枝子/作 大村百合子/絵 福音館書店 D913.6 ナ</p> <p>何でも「いや」「いや」言ってばかりのしげるは「いやいやえん」という保育園に入れられてしまいました。そこは、ちゅーりっぷほいくえんのように約束事がなくて、嬉しいはずなのですが…。表題の「いやいやえん」の他、元気なしげるが通うちゅーりっぷほいくえんでのお話です。</p>
	<p>エルマーのぼうけん</p> <p>ルース・スタイルス・ガネット/作 ルース・クリスマン・ガネット/絵 福音館書店 D933.7 ガ</p> <p>九歳の男の子エルマーは、どうぶつ島で荷物運びをさせられている、かわいそうな子どものりゅうを助けに出かけることにしました。リュックにつめたのは、チューインガムやももいろのぼうつきキャンデー半ダースなど…。こんなおかしなものを使って、エルマーはみごとにりゅうを助けだします。</p>
	<p>おおかみと七ひきのこやぎ グリム童話</p> <p>フェリクス・ホフマン/絵 瀬田貞二/訳 福音館書店 E903.6 ホ</p> <p>むかしあるところに、おかあさんやぎと七ひきのこやぎが住んでいました。あるとき、おかあさんやぎが森へ食べものを探しに行って留守の間に、おおかみが家へやってきて…。有名なグリムの昔話の世界を忠実に表現した絵本です。</p>



おいしいのぼうけん

ふるたたるひ・たばたせいいち/作 童心社 E903.6 タ
さくらほいくえんでは、怖いものが二つあります。ひとつは
おいしいで、もうひとつは、ねずみばあさんです。さとしと
あきは、ミニカーの取り合いでけんかを始めて、先生にお
しいれに入れられてしまいました。そこへねずみばあさんが
現れて、たくさんのねずみと一緒に二人に襲いかかります。



きかんしゃやえもん

阿川弘之/文 岡部冬彦/絵 岩波書店 D913.6 ア
蒸気機関車のやえもんは、長い間働いたので、とても歳をと
ってたびれていました。ある日、新しい電気機関車にばか
にされたやえもんは、顔をまっかにして怒って、黒い煙と赤
い火の粉を吐き出して走り出しました。その火の粉で火事を
起こしたやえもんは、くず鉄にされそうになりますが…。



金のがちょうのほん 四つのむかしばなし

レズリー・ブルック/文・絵 瀬田貞二・松瀬七織/訳
福音館書店 D933.7 フ
むかし、三人の兄弟がいました。末の息子はぬけ作と呼ばれ
て相手にされていませんでしたが、森で小人に会って幸運を
さずかります。表題の「金のがちょう」の他、「三びきのくま」
「三びきのこぶた」「親ゆびトム」イギリスの昔話が四話。



くしゃみくしゃみ 天のめぐみ

松岡享子/作 寺島龍一/絵 福音館書店 D913.6 マ
むかしむかしの、そのまたむかし、大きなくしゃみをする「く
しゃみのおっかあ」というおばさんがすんでいました。その
むすこの「はくしょん」がくしゃみのおかげで長者の婿にな
るお話。その他、しゃっくり、いびき、おなら、あくびを題
材にした楽しいお話が四話入っています。



けんた・うさぎ 子どもとお母さんのおはなし

中川李枝子/作 山脇百合子/絵 のら書店 D913.6 ナ
元気なけんた・うさぎの毎日は、楽しいことばかりです。い
たすら・うさぎになった日は、三輪車で水たまりを走ってど
ろだらけ。あべこべ・うさぎになった日は、T シャツのそで
に足をつっこんで、ズボンを頭にかぶって、うさぎ・かあさ
んにおこられました。幼い子どもの日常を描いたお話です。



トムとゆうかなせんちょうさん

エドワード・アーディゾーニ/作 せたていじ/訳
福音館書店 E903.6 ア

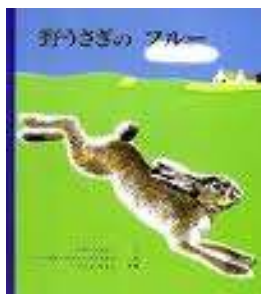
トムは、ふなのりになりたくてたまりませんでした。けれど、お父さんもお母さんも「まだ小さすぎるよ」と言って許してくれません。ある日、トムは大きな船にこっそり乗り込むことに成功しました。けれども船の生活は楽しいことばかりではありません。はらはらする冒険のお話です。



トム・ラビットのぼうけん

アリソン・アトリー/原作 石井桃子/訳 中川宗弥/画
童心社 933.7 ア

こうさぎのトムは、おとうさんとおかあさんと一緒に村の草刈り場にすんでいます。好奇心いっぱいのトムの暮らしを優しく描いた作品は、見つけたハサミで自分の毛を全部刈ってしまう「トム・ラビットとはさみ」や、傘の代わりにキノコをさして得意になる「トム・ラビットのあまがさ」など全9話です。



野うさぎのフルー

リダ・フォシェ/作 F・ロジャンコフスキー/絵
石井桃子/訳・編 童話館出版 D953.7 フ

野うさぎのフルーは、家族と別れてひとりぼっちになってしまいました。けれど、神様がどんな野うさぎにも授けてくれた三つのおくりもの、土と同じ色をして敵から身を隠してくれる茶色の毛皮、遠くの小さな音でも聞きつける大きな耳、そして音をたてずに速く走れるじょうぶな足を使って、自然の中を賢く生き抜いていきます。



ふしぎなたいこ

石井桃子/文 清水崑/絵 岩波書店 D913.6 イ

むかし、あるところにげんごろうさんという人が住んでいました。げんごろうさんが持っている太鼓は、たたくと鼻を高くしたり低くしたりする不思議な太鼓です。この太鼓は人を喜ばせるためでなければ使っていけない事になっていたのですが…。日本に伝わる愉快なお話が、他に「かえるのえんそく」と「にげたにおうさん」の2話載っています。



ぼくは王さま

寺村輝夫/作 和田誠/絵 理論社 D913.6 テ

王さまは、たまごやきがだいすきです。国中の人にたまごやきをごちそうしようとしたのですが、たまごがいくつあってもたりません。そうのたまごなら大きいたまごやきが作れると考えた王さまは、大臣や家来に命令して、そうのたまごを探しに行かせますが…。「そうのたまごのたまごやき」の他、ナンセンスで楽しいお話が他3話。



ももいろのきりん

中川李枝子/作 中川宗弥/絵 福音館書店 D913.6 ナ

るるこは大きなももいろの紙で、世界一大きくて世界一きれいな、きりんのキリカを作りました。ところが、雨にぬれてキリカのももいろがはげてしまいました。二人はクレヨン山に行って、ももいろのクレヨンを取って来ることにしましたが、そこにはいじわるな熊がいて…。



ロボット・カミイ

古田足日/作 堀内誠一/絵 福音館書店 D913.6 フ

ロボットのカミイは、たけしとようこが作った紙のロボットです。カミイはいばりんぼで泣き虫で力持ち。そんなカミイが、たけしたちの幼稚園に通いだして大騒ぎをおこします。

おうちの方へ

小学校に入学して世界がぐんと広がってきた子どもたちへ、図書館からおすすめしたい本をご紹介します。この年齢の子どもたちは、自分で読むことも、おうちの人に読んでもらうことも大好きな年頃です。お気に入りの本が見つかりましたら、どうぞおうちの方の声で読んであげてください。同じ物語を一緒に楽しんだ幸福な時間は、子どもたちが本を好きになるきっかけになると思います。

このリストで紹介した本は、世代を超えて読み継がれている名作で、内容も冒険もの、ファンタジー、楽しい日常を描いたもの、昔話など、子どもの幅広い興味に答えられるように心を込めて選びました。市立図書館でも所蔵していますので、ぜひ手にとってご覧ください。本選びに迷ったときには、お近くの図書館にお尋ねください。